



委員会の構成

去る9月3日、市議会議員選挙後最初の臨時会が開催され、正副議長の選挙、常任委員会委員の選任及び議会運営委員会委員の選任等が行われました。

議長 大山 政司
副議長 上田 浩志

総務委員会

委員長 樋田 都
副委員長 岩野 保

新宮 康裕
河野 史保
山本 明裕
大山 儀夫
大山 政司

民生文教委員会

委員長 石崎 久次
副委員長 西山 一規

佐々木 加代子
井上 浩
山本 儀夫
萩森 良房

産業建設委員会

委員長 遠藤 素子
副委員長 竹内 恭明

上田 浩志
宮本 明裕
萩森 良房

議会運営委員会

委員長 井上 和浩
副委員長 石崎 久次

樋田 都
上田 浩志
宮本 明裕
萩森 良房

9月臨時会・定例会

市政をたず 一般質問



今定例会では、5人の議員が一般質問に立ち、市長はじめ関係理事者の考え方をたずました。

質問及び理事者答弁は質問者本人が要約したものです。

なお、掲載は質問順、一般質問の詳細につきましては、会議録に掲載しています。

一般質問者			
No	質問者	No	質問者
1	佐々木 加代子	4	岩 淵 治 樹
2	河 野 裕 保	5	石 崎 久 次
3	遠 藤 素 子		

会議の詳しい内容を知るには

本会議の内容をそのまま記録した文書として会議録があります。

会議録は、議会事務局、市立図書館、各地区公民館で、ご覧になることができます。また、市議会ホームページでもご覧になれます。



佐々木加代子議員

質問事項

- 1 道の駅「みなと」について
- 2 市立病院について
- 3 聴覚・音声・言語障がい者の緊急通報について

道の駅「みなと」について

問 観光客誘致・魅力ある「みなと」づくりの取り組みと設備の改善について伺う。

答 来訪者の方から寄せられた要望の中で最も多かったのが、魚を売るところはあがるが、気軽に食べるところがないということ。現在常設の施設としてドーナツや食堂開設に向けて準備を進めている。ドーナツや市場においては、少量ずつのパック詰め商品を増やしたり、魚をさばくサービスを積極的に行うなど、これまで以上に一般消費者に目を向けた営業に努めていきたい。みなと交流館においては、婚活イベント、コンサートなどさまざまな自主企画イベントを実施しているほか、各種団体による施設の利用促進に努めており、エリアへの集客、エリアの周知に大きく貢献している。引き続き各施設の運営者と協力しながら、魅力ある「みなと」づくり、港町八幡浜の復活を目指していきたい。

市立病院について

問 内科以外の診療内容の詳細が確認できる資料の配布と広報活動について伺う。

答 市立病院では、3カ月に1度「えがお

障がい者の緊急通報について

問 聴覚・音声・言語障がい者の緊急通報の現状と携帯電話による簡単通報システムの導入について伺う。

答 主な通信手段としては、ファックスあるいは電子メールで、平成20年度より緊急通報ファクシミリ登録を開始し、現在25名の方が登録、利用実績は現在まで2件である。また、外出時の緊急対応については、聴覚障がい者向けのコミュニケーションツールであるSOSカードを消防署と手話サークルあゆみの会が協力し八幡浜市独自のものを作成しており普及に努めてまいりたい。携帯電話による緊急通報システムについては、最も必要と思われる高齢の障がい者が携帯電話を持っていないことや、操作が難しいこと等から導入を見送った経緯がある。近隣市で導入されたことを受け、今後とも協議を重ね最適な通報手段を見出しに行きたい。



河野裕議員

質問事項

- 1 行政機能の多極分散化による中心市街地の活性化について
- 2 急激な少子化の対抗策について

保内庁舎の存在理由

問 対等合併による分庁方式が旧保内町民の誇りを堅持しつつ、新市民として感情移入できた。現在、保内庁舎を核にして各施設が有機的に繋がり、「自治アゴラ」が形成され、コミュニティの醸成及び生涯学習並びに高齢者福祉に貢献している。よって八幡浜庁舎と保内庁舎の二極体制を、この先も絶対堅持して頂きたい。

答 合併協議の確認事項として、行政機能は分庁方式とした。保内庁舎に教育委員会など7課を配置している。効率優先なら本庁方式が望ましいが、現実問題として現八幡浜庁舎では、すべての課を受け入れることは不可能である。保内庁舎の存続は単に効率性だけの問題ではなく、情勢の変化がない限り、現在の分庁方式を維持する。

行政機能の多極分散化

問 行政機能の多極分散化による中心市街地の活性化が急務である。中心市街地(商店街)の一角に福祉・保健衛生の機能を移転させること。これだけで人の流れが変わる。そこから、経済の波及効果が生まれてくる。『元氣な高齢社会は商店街から』のキャッチフレーズで施策を展開する。場所がない、資金がないなどの前例に固執しないこと。港界隈と中心市街地が共にウインウインの関係構築を築くこと。次に、商工観光課を観光の拠

点の最前線に移動させること。これまでに見えてこなかったものが見えてくる。「ちゃんぼん」の次は、なつかしい「ぼんぼん船」が行き交うみなとまちの魚料理だ。市外からの観光客を呼び込むことではないか。

答 中心市街地に保健福祉施設を整備することは新たな人の流れをつくるには効果的であるが、すべての施設機能を移転させるには必要なスペースが確保できないため、現時点での移転は難しいと考えている。商工観光課は、観光振興以外にも商工業や地場産業の振興等多様な業務を所管しており、八幡浜庁舎に設置するのが適当である。

少子化の対抗策について

問 本市の少子・高齢化の進行は容易ならざる事態に向かいつつある。高齢化率34.1%、昨年度の出生数206人、この現象を座視すれば、産業は衰退し、社会資本(公共下水道等)の維持更新がほとんど不可能になってくる。地域の伝統行事、自助・共助が保てなくなる。ストップザ少子化の施策を伺う。

答 国立社会保障人口問題研究所の推計値によれば、本市の2035年の人口は24,850人だ。少子化対策は地域の存続に関わる重要な課題。働く場所の確保による若者の定住化促進策を展開しつつ、婚活イベントを定着させていく。



遠藤素子議員

質問事項

- 1 高すぎる国保税は引き下げを
- 2 子どもの医療費無料化の拡充を
- 3 住宅リフォーム助成制度の創設を
- 4 伊方原発の再稼働を認めず廃炉を求める決断を

高すぎる国保税は引き下げを

問 国保世帯の所得が減る一方で負担は増え続け、「高すぎて払えない」との悲鳴を聞く。国保税はできるだけ安くして誰もが安心して医者にかかれるようにし、早期に病気を治して元気で働く、これが最も健全な姿である。基金を使って引き下げを求める。

答 国保会計の基金は、医療費の急激な高騰による財源不足を補うための財源であり、取り崩しはできない。

子どもの医療費無料化の拡充を

問 人口減に歯止めのかからない八幡浜市だが子育て世代の人達にとって子育てに金がかかりすぎることが、子どもをつけない原因の一つになっていると聞く。子育て支援、特に、通院費の無料化は影響が大きい。無理ならまずは、小学校三年生までの完全無料化を求める。

答 現在のところ、県内の他市で実施しているところはなく、導入すべき時期ではない。引き続き検討課題としたい。

住宅リフォーム助成制度の創設を

問 深刻な不況のもと、地元業者のみさんの仕事は、1970年頃と比べ、3分の1以下に激減している。この制度を導入した市町ではどこでも、住民に喜ばれ経済効果は、組んだ予算の10倍から25倍に及び町の活性化

につながる。又、異常気象で災害が多発しているが、その時地元業者のみさんの献身的な作業が頼りとのこと。是非前向きな検討を。

答 巨大地震に備え木造住宅耐震診断および耐震改修事業を推進し、市民の生命、財産を守ることが最優先と考えているが、この制度が助成金を上回る効果を上げているとも聞いている。検討していきたい。

伊方原発の再稼働を認めず、廃炉を求める決断を

問 安倍総理がオリンピック招致演説で「汚染水はコントロールされている」等と述べたことについて問題ないとお考えか。

答 市長としてコメントする立場にない。

問 福島事故は、その原因さえ分かっているか。また、人為的なミスもあり絶対安全な対策など取り切れない。原発がなくとも電力は足りている。市民の命、ふるさとを守るため、原発の再稼働を認めず廃炉を求めるべきではないか。

答 事故の直接の原因の解明には至っていないが、自然災害に対する想定外の甘さなど新規基準や原子力対策指針に教訓として生かされており、高度な安全性が確保される。また、再稼働や廃炉の判断は、最も専門的な知見を有している原子力規制委員会が判断すべきだと考えている。



岩瀨治樹議員

質問事項

- 1 市政について
- 2 小・中学校統合について

市議会議員の本分を考えれば、市民の代弁者であるという事につきる。厳しい財政状況の中、無駄を徹底的に排除し、先ず議員自らが歳出削減に資する努力を重ねる事が肝要と考え、しっかりと初めての議員の任期を全うしていきたい。

問 新人6名を含む16名体制の新市議会に對しての、市長の感想、市長と市議会との理想的な関係について思われるところを伺いたい。

答 主権者である市民に直接選ばれた、執行機関を代表する市長と議決機関である市議会が、市民の為を第一に、相互に牽制し合い議論を重ねて、より良い政策を実現するために務めることが理想的な関係と思う。また議員定数削減の中、誕生した新人議員には、フレッシュな視点でのご意見を期待したい。

問 学校統合は、子供達に等しくより良い学習環境を確保する為の重要な施策だ。既に統合された長谷小と千丈小の現況と効果測定、また来春予定の舌田小と神山小、日土東小と日土小の統合準備の進捗状況を伺う。

答 旧長谷小からの3名の児童は、新しい友達も出来、千丈小にも慣れ、落ち着いた学校生活を送っている。登下校はスクールタクシーを利用。小規模校では出来なかつ

た幅広い体験が可能になったと思っ

ている。舌田小と神山小は今年2月6日に、日土東小と日土小は同3月1日に合意書調印式を行った。平成26年4月までは、それぞれの学校間で、授業、遠足、参観日等交流を深め、舌田小6名、日土東小11名の児童が伸び伸びと健やかに学校生活を送れるよう準備をしている。

問 廃校の跡地利用の方針と現況を問う。当市の高齢化率を考え、介護福祉施設への転用を希望するが実現可能か。また国庫補助制度等の活用状況は。

答 旧磯崎小に歯ブラシ工場を、旧大島小中学校にアワビ、ナマコ等の養殖、加工品開発の為の大島産業振興センターを開設した。複数の学校で体育館を地域住民向けに活用し、基本的に地域の要望に応えるよう検討している。介護施設への転用は、費用やノウハウ等の問題で、民間設置が望ましい。施設の増設によるサービス増加は、保険料負担のアップにつながる問題もある。国庫補助では、大島で国交省の助成を受けた。介護福祉施設建設の補助としては、平成21年度からの介護基盤緊急整備等臨時特別交付金事業により、当市でも平成23年度に小規模特別養護老人ホーム、小規模多機能型介護事業所各1施設の建設に利用した。介護保険料の負担とのバランスを考慮し慎重に検討して行きたい。



石崎久次議員

質問事項

- 1 大島の漁業振興について
- 2 ミカン産業の振興について

大島の漁業振興について

問 これまで市は、ウニ、アワビ等の放流やカキの養殖といった支援をしてきたが、自然との闘いの中、あまり成果は上がってこなかったと思う。今大島全体での漁業を振興する体制になっているか。

答 平成17年からアワビやウニの種苗放流、アワビ、ヒジキなどの海面養殖や海岸清掃に取り組んできた。漁業者の高齢化が顕著である為この交付金を利用し、高齢漁業者の安定した雇用の場となるよう、昨年9月に旧大島小、中学校を利用した大島産業振興センターを整備し、アワビ等の陸上養殖は閉鎖循環方式で飼育管理技術の習得に時間を要することから、当初数名の役員でスタートしたものである。

問 海の養殖ではなく陸での養殖を行うことでの漁獲量の安定、養殖期間の短縮そして、何より海にでなくてよいという安全性の面からも期待の持てる事業であると思う。現段階での状況、将来計画を伺う。

答 生存率は90%と順調。通常海面養殖では3年かかるが、閉鎖循環方式による陸上養殖では1年半で出荷サイズに達する。アワビの陸上養殖は、採算面から事業性が確保されることが予想されることから、今年度一部飼育施設を改良して養殖密度を高くして飼育可能か検討する予定である。



大島産業振興センター

ミカン産業の振興について

問 今年の夏は猛暑で、昭和42年の大干ばつが思い出された。ただ当時と違うのは灌漑施設が今は整備されているということだ。この施設も古いもので30年になろうとしているが、施設及び配管等の修繕に対する補助はどうなっているか。

答 農水省の平成26年度概算要求では総事業費43億円となっており、これが採択されれば、来年度から真穴、川上、諏訪崎、舌田等の西南地区でファームポンドから制御室までの保守更新事業が開始される。農家に負担がかかっている制御室までの維持管理費においては、事業費40万円の7割、28万円限度に補助している。末端施設である制御室から末端のスプリンクラーまでは、受益者の負担に現在なっている。この末端施設修理の支援については国、県に要望をしており、面積の要件等の事業採択について少し制約があるが、少しずつでも農家負担を軽減できるよう、現在、県とともに協議しているところである。

総務委員会報告

樋田 都 委員長

議案第64号八幡浜市行政財産使用料条例の一部を改正する条例の制定について

問 条例改正が必要な理由として具体的にはどのようなことか。

答 北浜立体駐車場の1階と2階をフジに貸し付ける。フジから、この駐車場の臨港道路側の壁に看板等を掲示したいとの申し出がある。現在、規定がないため追加し、金額についても「市長が別に定める額」として対応する。

議案第73号財産貸付収入、土地貸付料1、364万7,000円について

問 フジへの土地貸付料であるが、坪単価はいくらか。

答 坪単価は、月487円43銭である。

総務管理費、企画費八幡市への中学生派遣交流事業費関連81万円について

問 この事業で選ばれる市内の生徒24名は、どのような基準で選ばれるのか。

答 具体的にはまだ決めていないが、中学1年生を派遣の対象として考えている。募集の形をとり、希望者が少なければ学校単位で指名をいただくことも考えている。

企画費などと交流館運営委員会等報償金13万円に対し

問 アゴラ、交流館、ドーナ市場を含めたみなとオアシス合同運営会議を開催してい

るが、新たに委員会を設置する必要があるのか。また、ご意見箱を設置して利用者の声は把握しているか。

答 合同運営会議は、月1回開催している。ご意見箱は、交流館に設置しており毎回の合同運営会議の中でその意見を共有し、改善を図るようお願いをしている。

問 今回のみなと交流館運営委員会は、交流館の適正な運営を図るため、第3者による協議の場を設けるべきであるという議会側からの指摘もあり設置するものである。

問 みなと交流館の運営に関連し、NPO法人の代表者による実演販売が行われていたようだが、以前の海鮮朝市ではかまぼこ業者が輪番で実演販売を行っていた。業者が公平公正に参加できるようにしているか。

答 出店は公募により決定しているが、今後も月に1度はイベントを実施したいと考えている。公募を原則とし、応募が多い場合は、前回出店した方は外れ、順次決定するという方向で合同会議の中で確認して進めている。

問 みなと交流館、「みなと」全域の来客数について現況はどうなっているか。

答 4月から8月までの合計は、68万2,500人、1日平均4,800人ほどの来客数と推計している。4月は14万7,500人。5月は大型連休もあり20万2,500人。6月は12万5,000人。7月は10万2,000人。8月は11万人。

請願第1号、地方公務員給与費に係る地方交付税の一方的な削減に反対する意見書提出を求める請願については、全会一致で採択された。

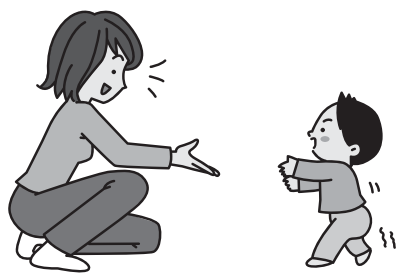
民生文教委員会報告

石崎 久次 委員長

議案第65号八幡浜市子ども・子育て会議条例の制定について

問 八幡浜市子ども・子育て会議が形だけの会議にならないように、委員には子どもがどんどん少なくなっている中の問題点などが本当に分かっている人が入るのか。

答 会議の委員は、子ども・子育て支援法を踏まえ、行政関係者、保育従事者、保護者代表、学識経験者の15名を予定している。



議案第71号八幡浜市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

問 日土東小学校の児童は「にこにこバス」を利用して日土小学校へ通学するということだが、舌田小学校の児童はどういった交通手段で神山小学校に通学するのか。

答 舌田小学校は校区が舌間、合田及び栗野浦であり、来年の児童は6名である。統合協議の結果、スクールタクシーで通学することとなった。

問 学校統合の合意の調印が行われたら、統合決定だと一般的には思うが、学校統合が決定されるまでの手続はどうなっているのか。

答 学校統合は、教育委員会の方で統合計画を立て、統合校と統合年度を決め、統合対象校となる両校の保護者と地域に説明をして、了解を得た証として統合合意書の調印式を行う。法的には議会の議決を経て県へ統合合意書を添付し届け出ること、手続きは終了する。

議案第73号平成25年度一般会計補正予算(第2号)の内、大谷口火葬場跡地、火葬場棟解体撤去工事費について

問 大谷口地区の住民からは、火葬場が現在の場所に移転されるまで苦労した長い歴史があると伺っている。解体撤去後の跡地をどう利用しようとしているのか。

答 公園整備を予定している。その後地域住民の方の意見を伺い、跡地利用について検討する。

「マウンテンバイクトレーニングコース造成工事費」について

問 八幡浜市内のマウンテンバイク愛好家は何人いるのか。

答 今年の大会に参加された市内の選手は7名(大人6名、子供1名)である。トレーニングコースが完成すれば講習会、試乗会を開き裾野を広げ、市内の利用者を増やしていきたい。

意見 この工事が本当に八幡浜市民のためなのか疑問になる。その辺の判断は本当に必要かどうかの優先順位を考えてやってもらいたい。

産業建設委員会報告

遠藤素子 委員長

議案第68号、八幡浜市駐車場条例の一部を改正する条例の制定について

問 今回の条例改正で、新川駐車場を短時間利用できるよう30分まで60円に料金改正されるとのことだが、現在、腐食も激しく維持費もかかり、利用者も年々減少している新川駐車場が今後も必要なの。また時間貸しだけでなく、一日千円とか、月極めにするなどで利用者を増やすことはできないのか。

答 新川駐車場については、平成7年度に1千万円あった収益が、平成24年度には110万円になっており、利用者の減少や維持費を考えると駐車場の存在、健全な経営に苦慮している。しかし、八日市等の商店街のイベント時には満車となるため、即座に廃止することは難しく、台数の減少、関係経費の削減に努めながら方向性を見出し、ていきたい。また、定期駐車場で貸す方が、効率も良いのだが、新川駐車場は商店街利用者の駐車場不足、商店街の活性化という目的で河川の上を占用して建設した経緯があり、実際、一部、定期駐車として貸しているが、河川管理者からは、これ以上定期駐車を増やさないよう指導を受けているため、あくまでも、商店街の利用者の駐車場ということ、時間貸しでやっていきたい。また、一日千円の制度はすでに取組んでおり、それはもっと宣伝していきたい。

議案第73号、平成25年度八幡浜市一般会計補正予算(第2号)について

問 新規就農総合支援事業補助金は、新規就農者に対して年間150万円を5年間支給されることであったが、その申請者は、農業後継者なのか、現状を聞きたい。

答 申請者はすべて農業後継者であり、昨年度は申請者8名のうち審査の結果5名に絞った。今年度は、国の予算も増額になったため、8名の申請者全員が受け取ることができた。受給者の年齢は、最年少が21歳、最年長が36歳で、すべて男性であった。

問 今回増設する海産物直売所トイレの清掃などの管理はどが行うのか。また、ドーナツや食堂の施設を整備することによって運営は誰がどのように行うのか。

答 トイレの管理については、「みなと」のトイレと同じ指定管理の方をお願いする予定と聞いている。ドーナツや食堂の整備は、補助事業で行うため法人化が条件となっている。そのため、7月にドーナツや市場内の16店舗が集まり法人化した。名前は「合同会社ドーナツ市場」で、今後は、同社が魚などの原料供給から食堂に対するサポート、雇用まですべてを行っていくことになる。

問 田浪の建設残土処理場築造工事費3千万円について説明を求めます。

答 当初6万m³の受け入れを予定していたが、千丈トンネルなどの残土が5万m³増えたため、これに伴い追加の造成工事を行うものである。11万m³の受け入れにより捨土料8,400万円程度、県から入金されることになる。

9月臨時会 審 議 結 果

番 号	件 名	審議結果
報告第15号	八幡浜市土地開発公社の経営状況について	報 告
報告第16号	宇和海文化都市開発株式会社の経営状況について	報 告
報告第17号	専決処分報告について(市道宮内川之石線において発生した接触事故に係る相手方との和解及び損害賠償の額の決定について)	報 告
報告第18号	専決処分報告について(八幡浜市水産物地方卸売市場敷地内において発生した接触事故に係る相手方との和解及び損害賠償の額の決定について)	報 告
選挙第2号	市議会議長の選挙 大山政司	投 票
選挙第3号	市議会副議長の選挙 上田浩志	投 票
選任第1号	常任委員会委員の選任	議長指名
選任第2号	議会運営委員会委員の選任	議長指名
選挙第4号	八幡浜地区施設事務組合議会議員の選挙 岩瀨治樹 河野裕保 樋田都 新宮康史 西山一規 佐々木加代子 石崎久次	指名推選
選挙第5号	南予水道企業団議会議員の選挙 遠藤素子 平家恭治 大山政司	指名推選
選挙第6号	八幡浜・大洲地区広域市町村圏組合議会議員の選挙 遠藤素子	指名推選
	所管事務調査について	原案可決

9月定例会 審 議 結 果

番 号	件 名	審議結果
報告第19号	平成24年度八幡浜市健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	報 告
認定第1号	平成24年度八幡浜市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について	継続審査
認定第2号	平成24年度八幡浜市水道事業会計決算の認定について	継続審査
認定第3号	平成24年度市立八幡浜総合病院事業会計決算の認定について	継続審査
諮問第3号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	異議のない旨答申
議案第61号	平成24年度市立八幡浜総合病院事業会計資本金の額の減少について	原案可決
議案第62号	八幡浜市市税条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第63号	八幡浜市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第64号	八幡浜市行政財産使用料条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第65号	八幡浜市子ども・子育て会議条例の制定について	原案可決
議案第66号	八幡浜市後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第67号	八幡浜市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第68号	八幡浜市駐車場条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第69号	八幡浜市公共下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第70号	八幡浜市特別工業地区建築条例の制定について	原案可決
議案第71号	八幡浜市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第72号	八幡浜市通学費補助金交付条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第73号 ～第79号	平成25年度八幡浜市一般会計補正予算(第2号)外6会計補正予算 予算額9億9,102万2千円	原案可決
議長発議	決算審査特別委員会設置の件	原案可決
	決算審査特別委員会委員の選任 委員長 樋田 都 副委員長 佐々木加代子 委 員 西山一規、竹内秀明、岩淵治樹、河野裕保、石崎久次、上田浩志、遠藤素子	指名推選
請願第1号	地方公務員給与費に係る地方交付税の一方的な削減に反対する意見書提出を求める請願	採 択
同意案第6号	副市長の選任について	原案同意
同意案第7号	監査委員の選任について	原案同意
同意案第8号	監査委員の選任について	原案同意
議員提出議案 第3号	「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保」のための意見書の提出について	原案可決
委員会提出議案 第2号	地方公務員給与費に係る地方交付税の一方的な削減に反対する意見書の提出について	原案可決
議員提出議案 第4号	議会改革特別委員会の設置について	原案可決
議員提出議案 第5号	行財政問題特別委員会の設置について	原案可決
選挙第7号	愛媛県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙	指名推選

9月臨時会及び定例会における各議員の議案に対する賛否の状況

賛否の分かれた案件を記載しています。
そのほかについては全員賛成で可決されました。

議 席	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
氏 名	西山一規	佐々木加代子	竹内秀明	岩淵治樹	平家恭治	河野裕保	石崎久次	樋田 都	新宮康史	上田浩志	井上和浩	遠藤素子	宮本明裕	山本儀夫	大山政司	萩森良房
議案番号	議案の可否															
議案第73号	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
同意案第6号	可	無記名投票						賛成12			反対3			議 長	○	
同意案第7号	可	無記名投票						賛成11			反対4				○	
同意案第8号	可	無記名投票						賛成9			反対5				除 斥	○
議員提出議案第5号	可	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○		○	○

[○：賛成 ×：反対 大山政司議長は採決に入っておりません]

議長・副議長あいさつ



議長
大山政司

このたび合併後6代目の議長として就任いたしました。今回の選挙から議員定数が16人となり、議員1人に対する責任がさらに重くなった中で、議長の重責を担うことは、誠に身に余る光栄であり、その職責の重大さに身の引き締まる思いでございます。

当市は多くの地方都市と同様に少子高齢化や地域振興対策など課題が山積しておりますが、市民の福祉の向上と生活の安定のため、市民の声に耳を傾け、より良い政策・施策の実現と諸課題の解決に向けて、議員が一体となり全力を尽くしてまいります。

今後とも市民の皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。議長就任のあいさつといたします。



副議長
上田浩志

このたび、市議会議員選挙後の初議会におきまして、議員皆様からの推挙により八幡浜市議会第7代副議長に就任させていただきました。身に余る光栄と感激いたしますとともに、責任の重さを痛感いたしております。

市議会として「市民に信頼される議会・開かれた議会づくり」に努めると共に、人格・識見に卓越された大山政司議長のもと、議会が公正かつ円満に運営されますよう、誠心誠意努力する所存であります。

市民の皆様のご指導とご協力をお願い申し上げ、就任のあいさつといたします。

議会日誌(H25.9.4~H25.9.9)

◆委員会活動状況

- 9月4日 議会運営委員会開催
- 5日 総務委員会開催
- 6日 民生文教委員会
- 9日 産業建設委員会

◆庶務関係

- 9月8日 正副議長及び各議員が八幡浜市美術展開覧式に出席

2つの特別委員会を設置

名称	議会改革特別委員会	名称	行財政問題特別委員会
定数	15名(議長を除く全議員)	定数	15名(議長を除く全議員)
付議事件	委員会の構成、市長選挙との同時選挙及び党派等議会改革に関する調査・研究について	付議事件	(1) 市の入札・契約制度に関する調査・研究について (2) 南海トラフ地震及び伊方原子力発電所に関する防災の調査・研究について
設置期間	設置の日から調査終了の日まで、なお閉会中も調査及び研究を行う	設置期間	設置の日から調査終了の日まで、なお閉会中も調査及び研究を行う

編集後記

新議員による議会がスタートしました。これまで議員はどこかの常任委員会に所属していましたが、定数減で、一人一役では委員会の構成が難しくなり、3人の議員が二つの委員会を掛け持ちで務めることになりました。また、二つの特別委員会を全員(議長を除く)が務めますので、大変忙しくなりそうです。しかし、新人議員のみなさんは、他の常任委員会を傍聴し、決算委員会の前には勉強会を開くなど意欲的で頼もしく思います。

遠藤



《議会だより編集委員》

- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 遠藤素子 |
| 副委員長 | 佐々木加代子 |
| 委員 | 岩淵治樹 |
| 委員 | 平家恭治 |
| 委員 | 河野裕保 |
| 委員 | 石崎久次 |
| 委員 | 上田浩志 |
- 八幡浜市議会事務局
☎ 代 22・3111